

平成26年度環境・食育校種間連携パートナーズスクール事業

地域の魅力再発見 ～自然・人・地域をつなぐ“食”～

11月11日（火）、爽やかな秋晴れの下、竹野小学校と須知高校、京都大学大学院による環境・食育パートナーズスクール事業を開催しました。今年2回目の取組も須知高校を会場に小豆の収穫、あんぱんづくりとその試食を行いました。

この夏、小学生と種まきをして高校生が一生懸命育ててくれた小豆が収穫期を迎え、茶色や黄色っぽくなったさやが茎からたくさんぶら下がっていました。「熟したやつだけとるんやで」と高校生が見本を見せながら、大学院生の皆さんと一緒に、袋がいっぱいになるまで収穫作業を行いました。

あんぱんづくりでは、高校生が事前に用意したあんこをパン生地で包む作業を全員で行いました。高校生が児童の手をとって作業の補助をする班が多く見られましたが、中には「家でおもち作りを手伝ったことがあるから」とあっという間にあんこを包んでいる児童がいました。また、大学院生に包み方を教えている小学生の姿も見られました。

次に大学院生の亀山さんから、京丹波町食のキャラクター味夢くんに描かれている京丹波町を代表する食材の紹介や、小豆を使った郷土料理、栄養価などについて講義を受けました。なかなか馴染みのない料理や食材の名前が飛び出し、児童たちも興味深そうに耳を傾けていました。

最後に、焼きたてのあんぱんをみんなで試食しました。わずか1時間半ほどの交流でしたが、児童・生徒・学生がそれぞれの知識を深め合う姿が印象に残る取組になりました。

次回は1月17日（土）に竹野小で、今回収穫した小豆を使った取組を行う予定です。

《感想から》

小学生：収穫のとき、さやがすっと取れたのが楽しかった。あんこが甘くておいしいあんぱんができたのでよかった。

高校生：みんなで一緒に作ったあんぱんは、とてもおいしかった。大学院生に教えていただいたことを今後の勉強に活かしていきたい。

